

## 告 辞

春の風が快い大安の佳き日に、ご来賓をはじめ、ご家族・保護者、同窓会関係の皆様方多数のご臨席のもと、平成26（2014）年度の琉球大学の学部卒業式並びに大学院修了式を厳かに挙行できますことは、衷心から慶びとするところでございます。

琉球大学を代表して、学部卒業生1,526名、大学院修了生266名、計1,792名の諸君の卒業並びに修了を心から祝福申し上げます。とりわけ、四年前に未曾有の東日本大震災の被災者となった諸君には、筆舌に尽くしがたい艱難辛苦を乗り越えて、本日の佳き日を迎えることができたことをともに慶び、この卒業式を人生の大きなステップ・ストーンにしてもらいたいと強く念じております。また、母国を離れて異なる生活環境のもとで奮闘努力した、留学生諸君に敬意を表します。さらに、卒業生・修了生を今日まで物質的・精神的に支えていただいたご家族の皆様に対して、これまでのご労苦に対する深甚なるねぎらいの念と心からのお祝いを申し上げます。

ただ今、卒業生・修了生諸君に授与した学士、修士及び博士の学位は、国際的な通用性をもつ質の高い教育によって、豊かな教養を身につけた幅広い職業人として、さらには優れた専門性を身につけた高度専門職業人・技術者並びに研究者として養成された者であることの証であり、琉球大学が自信を持ってそのことを保証する証明です。諸君には、本学で培ってきた深い学識と幅広い人間力をベースにして、国際社会及び地域社会で活躍するグローバル・リーダーとして、あるいは研究者として、経済社会や学術研究の発展に大きく寄与し貢献することが期待されています。

諸君が青春を過ごした学舎・琉球大学には、「自由・平等、寛容・平和」という建学の精神があります。4つのキーワードからなるこの建学の精神は、第16代アメリカ合衆国大統領エイブラハム・リンカーンのゲティスバーグでの演説や大統領就任演説に貫かれている精神を集約して表現したものであります。琉球大学における教育研究や社会貢献、国際連携活動は、創立以来65年間にわたってこの建学の精神のもとで展開されてきました。諸君は、「自由・平等、寛容・平和」の精神を体現した担い手として、本日、琉球大学を巣立っていきますが、琉球大学の卒業生・修了生としての自覚と誇りを持って、思い切り活躍し羽ばたいてもらいたいと希望します。

リンカーンはまた、次のように述べています。「もしあなたが〈自分には大したことなど出来ない〉とってしまったら、それは世界にとって大きな損失となるのです」と。

さて、太平洋戦争が終わって70年が経過しようとしています。情報化やグローバル化がめざましく進展している今日、世界的に生じている事象や国内の他の地域で起きている事柄が、ここ沖縄や私たち個人の生活にも影響することが多く、地球が狭くなったように感じられます。世界各地で生起していることが、瞬時にして直接・間接に私たちの生活や生き方にさえ影響する例が数多く見られるようになっているのが、われわれが今立っている21世紀初頭の時代的特徴となっています。

これらは、環境問題、資源・エネルギー問題、人権問題、民族問題、宗教問題、保健・医療問題、政治問題、軍事問題、経済・金融問題、労働問題、都市問題、教育問題、地域問題、貧困問題等々とカテゴライズされますが、国内を眺めても、東日本大震災からの復興は言うに及ばず、2020年開催の東京オリンピック、日韓・日中問題、TPP参加問題、アベノミクスと消費税増税問題、雇用問題、格差問題、原発とエネルギー問題、憲法改正問題、普天間飛行場の辺野古移設問題等々、私たちの生活のあり方や生き方が問われている喫緊の課題群があります。

これら諸問題は、これからも中身を変えながら起こり続けていくものと思われまふ。社会に巣立っていく諸君を持ち受けているのがこのような問題群であり、場合によっては諸君が関係者・当事者となることも考えられます。仮にそのような状況に置かれたとしても、諸君ならきっと克服していけるものと確信いたします。

ところで、これらの問題の根底にあり、本学の建学の精神の「自由・平等、寛容・平和」に関連した話題をもう一つご紹介します。それは、フランスの若き経済学者トマ・ピケティの大著『21世紀の資本』です。原著・フランス語版は2013年に出版され、英語版と日本語版は昨年出版されましたが、十数カ国で累計100万部を突破するベストセラーになっている経済書です。

なぜ、ピケティの718頁にもものぼる大著が話題になっているのか。それは、1700年からの長期にわたるデータを分析した結果、21世紀初頭の現在、富（資本）と所得の格差が拡大している、という単純明快な命題を提起したことにあります。とりわけ、1970年代以降、主要国が低成長時代に入り、これらの国々で富の蓄積と集中が進んだ結果、少数の富裕層が富の大部分を占めるようになったということです。長期にわたる富の不平等な分配が格差拡大につながっているという彼の主張が、世界中の関心と話題を集めているわけです。

なぜ、世界的に不平等化が進んだのか。それは、20世紀の終わりから21世紀初頭にかけて、本人の能力を反映しない相続財産が富を生んだり、トップ経営者たちが自らの報酬

を無制限に決める権限を持つようになったりしたことなどが、格差拡大を生む要因であったことをピケティは指摘しています。

自由と平等について、ピケティが生まれ育ったフランスの人権宣言の第一条は、「人は、自由、かつ、権利において平等なものとして生まれ、生存する」とうたっています。しかし、現実には、自由という名の下で市場原理主義が行き過ぎ、貧富の格差が広がり、不平等化が放置できないまでになりつつあるということが、21世紀の状況なのです。

これでは、これまでの倫理規範のひとつであった能力主義や機会の平等性がないがしろにされかねません。幸いに、歴史的に見て、平等をもたらす格差を縮小させる力は、知識の普及や技能・訓練への教育投資であった、ということをピケティは述べています。

どうぞ、諸君、教育の持つ力を信じ、自らの潜在能力を遺憾なく開花させることによって、それぞれの幸せを大きく掴み取って下さい。そのためには、選択の自由と機会の平等、多様性・異質性を認める寛容の精神、そして平和を求める心が重要であることを、本学の建学の精神から読み取って下さい。諸君の輝かしい未来に乾杯を献げ、餞の言葉といたします。本日は、誠におめでとうございます。

平成27年3月19日吉日

国立大学法人琉球大学

第16代学長 大城 肇